

令和6年度 総合的な探究の時間「みくし」 全体計画

愛媛県立今治北高等学校大三島分校（全日制課程）

教 育 目 標
地域と生徒の実態に即した教育を推進することを通して、地域を愛する態度や地域課題の解決に向けた実践力を養うとともに、情報化・国際化社会を生きるために必要な力を身に付けさせ、心身ともに健康で地域の核として活躍できる人材を育成する。
指 導 目 標
「自ら考え、行動する人間」を育成する。
努 力 目 標
「基礎基本の定着と生きる力の育成」 一人一役を担わせ、自信と自主性を確立させる教育の推進

総合的な探究の時間「みくし」における目標
探究の見方・考え方を働かせながら生徒自らの生き方・在り方に関することや地域の抱える諸問題について調査・研究等を行うことを通して、自ら課題を発見し、それを解決していこうとする態度を培うとともに、主体性・創造性・協調性等を養い、情報化・国際化社会を生き抜くために必要な「生きる力」を身に付けさせる。

学 習 活 動 の 内 容				
テーマ	適切な自己理解と望ましい職業観	高齢化社会と福祉	進路決定と自己実現	地域理解と地域活性化活動
学年	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	全 学 年
学 習 内 容 と ね ら い	<p>高校生は自我の確立期であり、自らの将来における生き方や進路を模索し、先行き不透明な社会の中で自らがどのように生きるべきかを認識する時期である。</p> <p>そこで、適性検査やレディネステスト等の実施を通して職業観の基礎となる自己理解を深めさせるとともに、職業調査やキャリアガイダンス等を通して職業観を身に付けさせることを目的として学習を行う。また、インターンシップ等の職業体験を通して、仕事の楽しさ・やりがい・厳しさを実感し、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、自分の将来像を見据え、高校卒業後の進路を考えていくための力を身に付けさせる。</p>	<p>大三島は高齢化率が50%を越え、県下でも高齢化率の高い地域である。加えて少子化が顕在化し、島を離れる若者も多い。このような状況の中、高齢者が心身ともに生き生きと心豊かに過ごすことのできる福祉の在り方について考えることは、島に生きる高校生にとっても必要不可欠である。</p> <p>そこで、保育所・老人ホーム・福祉施設への訪問やボランティア活動の体験等を通して、少子高齢化社会における望ましい福祉の在り方について見識を深めるとともに、全ての人々が生きがいをもって生活できるバリアフリー社会の実現に向け、自分たちにできることを考えさせることを目的として学習を行う。</p>	<p>近年、若年者の離職率や失業率の高さ、非正規雇用の増加等が問題となっており、高校においても生徒一人一人が生涯を通じた望ましいキャリアを形成していく力を持つことが求められている。</p> <p>そこで、自己分析や他者との話し合いを通して正しく自己を理解させることや、ディベート・小論文・ディスカッション等の実践的な指導を通して、現代社会の諸問題に関心を持ち、キャリア形成に必要な思考力・判断力・表現力等の能力を育成することを目的として学習を行う。また、外部講師による一人暮らし支援講座・年金教室・消費者支援講座等の受講を通して、社会人として必要な知識や資質を身に付けさせる。</p>	<p>大三島は過疎化、少子高齢化が急速に進行している地域であり、地域を担う若者の減少は、地域産業・地域文化の衰退につながる看過できない問題である。一方で、大三島には日本総鎮守と称される大山祇神社や県無形民俗文化財に指定されている一人角力など多数の誇るべき歴史や文化がある。</p> <p>そこで、大三島の歴史や文化等について調査・研究を進めるとともに、地域活性化に関するワークショップ、瀬戸内海島しょ部の他の高校との交流活動、高校生が主体となった地域活性化活動の立案・実践を通して、企画力・実践力等を育成するとともに、地域への理解を深め、郷土を愛する気持ちを培うことを目的として学習を行う。</p>
学 習 形 態	<p>学年ごとに調べ学習や校外実習、外部講師による講演等を実施する。オリエンテーションにより年間計画を知らせる。</p> <p>第1学年では「適切な自己理解と望ましい職業観」、第2学年では「高齢化社会と福祉」、第3学年では「進路決定と自己実現」の各テーマについての学習を主として行う。</p> <p>「地域理解と地域活性化活動」については各教科と連携しながら、3年間を通して適宜学習を行う。</p> <p>原則として週1時間実施（木曜7限を「総合的な探究の時間」に設定し、全学年が同一時間に活動）するが、実習等の場合は、時間のまとめ取りを行う。</p>			
留 意 点	<ol style="list-style-type: none"> 各学年において、年間計画に基づいて話し合いをしながら進める。 外部講師や関連機関と綿密に連携を図りながら、活動の成果を上げられるよう配慮する。 学習成果を発表・検討する場を設ける。 名称は「みくし」とする。 			